

2、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

① 昨年度の自己点検表を用いて見えてきた課題への取り組み

評価項目	具体的な取組状況
I「保育者としての資質や能力・良識・適正」	<p>☆3歳未満児</p> <p>保護者への伝達事項についての共通理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に伝えるべき内容、手段、誰が伝えるかについて共通理解をし、表を作成した。この表を新年度、新しいメンバーで確認し、各職員が理解し保護者に伝えていくようにした。 <p>☆3歳以上児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への伝達事項をしっかりと伝えるために、子どもの良い所・成長した所を保護者に日々繰り返し伝えていくことが大切であり、引き続き実践していく。また、「思いやりや優しい言葉がけで心の扉は開かれる→心の扉を開くことで良い連鎖が生まれる」ということを意識しながら保護者と連携をはかっていく。

① 1回目の自己点検・自己評価、グループワークを通して

夏に行った自己点検・自己評価の集計・分析を行った結果、8/1に行われた「新教育保育要領並びに幼保小連携について学ぶ」研修会で新教育保育要領についての意識が高まっている事で、全体的に課題として取り上げる人が多かった。そのため、新教育保育要領と当園の教育課程・基本方針や年間指導計画の関連性について2つのグループに分かれて下記の手順でグループワークを行った。

(※新教育保育要領…幼保連携型認定こども園新教育保育要領)

グループワークの手順

- ①園長より当園の教育課程・基本方針についての説明
- ②教育課程・基本方針と新教育保育要領との関連性について各自で調べ、付箋に書き移す
- ③教育課程・基本方針と各年間指導計画との関連性について各自で調べ、付箋に書き移す
- ④自分で調べた事、作業を行って気付いた事を各自発表

(調べる際、新教育保育要領の中央説明会資料、新教育保育要領の解説書、各年間指導計画を使用)

～各職員の気づき～

- ・園の教育課程・基本方針と新教育保育要領、各年間指導計画は密に関連していることに気づき、理解が深まった。
- ・教育課程・基本方針の一つと新教育保育要領の一つの領域が結びつくのではなく、5領域のほとんどの部分に関連していることが分かった。いろいろな事が重なり合わさることで保育が成り立っていくのだと感じた。
- ・新教育保育要領のねらいや内容を調べると日々の保育で意識・配慮していることと重なる部分が多く、普段の保育を振り返る良い機会となった。
- ・今後、定期的に年間指導計画と新教育要領、教育課程・基本方針とを見合わせる機会を作り、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を照らし合わせていくことも考えたい。(ただし到達目標として考えないことに気をつけたい)

まとめ

今回グループワークという形で園の教育課程・基本方針から紐解き、新教育保育要領との繋がりや年間指導計画との繋がりを調べた。今までは教育課程・基本方針は難しいものと捉えていたが、普段考えて行っている保育そのものであり難しく捉える必要はないことに気づき、理解を深められた。また新教育保育要領についても普段読む機会がなく難しいものと捉えていたが、教育課程・基本方針から紐解いて繋がりを考えたことで、ねらいや内容と普段の保育で配慮して行っていることとの関連性について知ることができ、難しいものではないという部分にも気づくことができた。さらに保育活動は新教育保育要領のねらいや内容に1対1で結びつくのではなく、5領域のほとんどすべてに関連していることに気づくことができた。今後は新教育保育要領・幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿と年間指導

計画、教育課程・基本方針を照らし合わせていく必要性を感じている。

② 2回目の自己点検・自己評価、グループディスカッションを通して

2回目の自己点検・自己評価の結果、「指導計画に基づいた保育環境の再構成」についての理解度に大きな差があることがわかった。そのため、保育の様々な場面を思い巡らせながら、子供の成長にとって必要な環境をつくるにはどうしたらよいか？環境の再構成とはどんなことか？をグループディスカッションで話し合うことにした。

「こどもが集中して遊んでいる時はどのようなときか？」を出し合った。その後反対に「集中して遊べない時はどのようなときか？」を出し合い、改善策を考えた。改善策を出していくと、普段自分たちが行っていることが多い事に気が付いた。今回話し合った3グループの表をもとに園として1枚の表を作成し、週案に挟み、環境の再構成に迷った時の指標にする。

【学校関係者評価委員会メンバー】(敬称略)

アドバイザー：東京福祉大学准教授 鈴木美子

富井 茂	塩沢小学校長	岡村 秀康	南魚沼市学習指導センター指導主事 学校法人理事
八木 三男治	元小学校長・学校法人理事	上村 篤嗣	当園 PTA 会長
岡 篤史	当園 PTA 副会長	田村 佑介	当園 PTA 副会長
事務局	角谷金城幼稚園長	角谷金城保育園長	担当：瀬下教頭 貝瀬主幹保育教諭

3、来年度へ向けて

評価項目	具体的な取組状況
I「保育者としての資質や能力・良識・適正」	①環境の再構成についての指標を作成し、週案に綴じ活用する(新年度までに) ②3歳未満児→手作りおもちゃの定期的な作成(新年度の未満児のメンバーで計画をたてる)

4、学校関係者の評価

- ・グループディスカッション資料から日常的なPDCAの成果としてもっと保育が良くなるよう常々保育者たちが考えていることがよく読み取れる。
- ・グループディスカッションで“子どもの生活リズム”についてあげられていたが、生活リズムは園だけでなく家庭の影響も大きいことと思う。園として家庭に働きかけることで保護者の意識も向上すると感じた。
- ・取り組んでいる内容はとても良いことなので保護者として継続して頂きたいと思う。項目をクリアするために行っているのではなくその実情に合わせて工夫しながら行っていることが伝わってくる。
- ・幼児教育は数や文字を教える“認知的な事”ではなく、“一つの遊ぶに遊び込む事が大切である”ということを職員間で考える機会があることは素晴らしい。
- ・こどもの教育や保育を充実させるために、今必要な事とされている新教育・保育要領に焦点をあてていて先進的だと感じる。
- ・こどもの実情や発達に応じて丁寧に取り組んでいて素晴らしい。グループディスカッションでは日々の振り返りをして改善につなげるという仕組みができています。無意識だがすでにやっていることを確認できる機会はとても大切である。
- ・当園の研修(グループディスカッション)では、グループで各人が自分の気づきを持ち、共有して、発表し、全体で共通理解するという流れで進めており、その中で各人の力量が高められている。受け身ではなく、自分の事として一人ひとりが考える力がある。
- ・学校評価委員会に本日参加されている保護者の話を聞いて感激した。保護者と園双方の連携が取れていることが感じられる。保護者の皆さんは園の良さを伝えてくれる大切な存在である。

5、苦情解決結果報告

平成 29 年度は事例がありませんでした。